

\*gr- は \*g/ɣ/ とい  
誤取

\*-p- → -p-  
→ -ph-  
\*-ph-

ataza, aghautā など  
早期借用の可能性もあり  
(dás < 監 doche)

たか dental な音は、alveolar な  
/t/ を /t/ で借用するより珍しくない

\*-k- → -k-

\*-r₂- → -kh- ~~(誤)~~  
→ -gh-

\*-p- → -p-  
→ -ph-  
\*-ph- → -bh-

?  
\*-k- → -k-  
→ -kh-  
\*-r₂- → -gh-

\*O₂akq → aghautā は  
アイル akuta などの経路か?

\*-ŋ- → -n-  
-ŋ- は現状  
無い

\*-p- → -p-  
→ -ph- (鼻音着)  
\*-ph- → -bh-  
\*-b- }  
\*-m- } → -m-  
→ -ϕ-

(語中 -b- は接辞のみに存在)

\*-d\* → -t- → -t-  
dubious → -th-  
\*-th- → -dh-  
\*-d- }  
\*-d- } → -d-  
\*-n- → -n-

点綴

\*zeepq → zep̄ha (cf. \*fuepq → ep̄a)

\*taupho → daup̄ha

\*momorq → baukkā (cf. \*terq → leḡha)

raikqt 24  
raikadq ??

\*qtaa → ad̄ha

\*atqzan → aduhazou!

\*qtaa, \*atqzan は  
仮定すべきか

ataza へ?

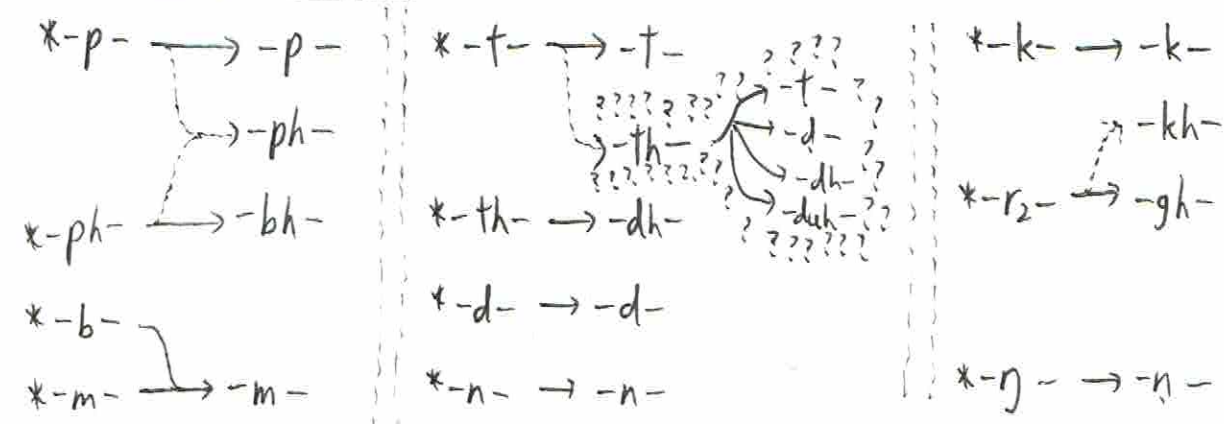
語中 -b- は接辞にのみ存在

語末 \*-d は \*-t- と合流する

並代  
\*phed phedu bhát  
\*dradq dadó dhórad  
\*tqtq tata dat

aghautā は早期借用の可能性が  
あり (cf. dáz < 藍 doche)  
+ dental な言語は、alveolar な  
t/ を /t/ で借用することが珍しくない

\*rakqt → kád (よく分かんか、  
元からよく分かんのかいよ)



大量のハナハは全て \*qtaa 由来なので、\*qtaa か \*qtea でなく \*qthaa / ɔta:/ とかでも可能性があり

点線の条件は?

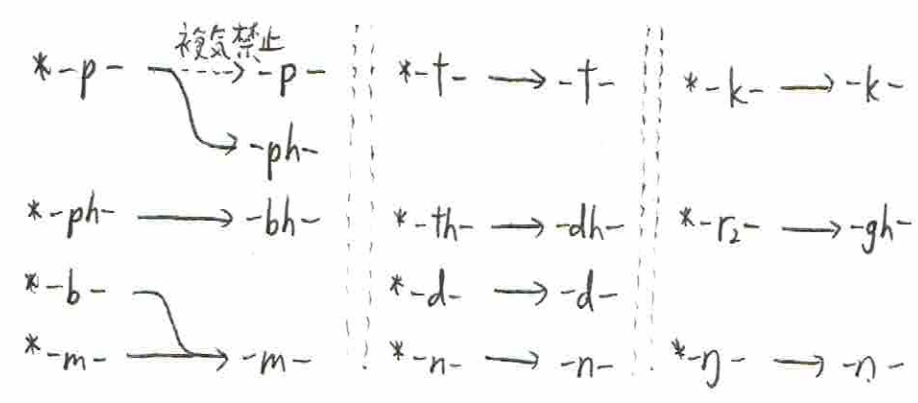
となり 藍 taupwo, 伐 daupha に対しては \*taupho でなく \*taupo を  
仮定すればとなり、\*-ph- の点線の廃止にも成功する。

\*baep → bhápú!  
(\*dkoop) → dhó!op  
\*fuepq → /hespa/ → epa  
bháhepa  
\*zeepq → zepa

\*momor₂q → baukhá → baukká (おそらくただの仮説であり、  
-ugh- の例がない以上、-ugh- → -ukk- である、とかの可能性もある。  
とはいえ、そもそも -m- の脱落もよく分らないし、いや  
音韻対応に無理か好い語あり、とかいってしま。  
Wiktionary に "of disputed etymology" と書いてあるやつ。

「複数有数の禁」か!

(いゝあ ápa は元は /haipa/ ??)



これにまじった